



医学部附属病院低侵襲総合診療棟、9日に竣工式

神戸大学医学部総務課 078-382-5011

神戸大学医学部附属病院低侵襲総合診療棟が平成26年1月に竣工し、医療整備を順次行い、3月末より診療を開始しております。遅ればせながら6月9日（月）16時半から、医学部附属病院西側のシスメックスホールで竣工式を開催しますのでご案内します。

新診療棟は、5階に病理部、4階に周産母子センター、3階に手術部、2階に光学医療診療部、腫瘍センター、麻酔科・ペインクリニック科、1階及び地下1階には放射線部を設置しております。

手術部の各手術室は、従来に比べて広くなり、医療用ガス及び電源、麻酔器並びにモニターなどが天吊り式となったことから、手術時における機能性及び安全性が向上し、低侵襲であるロボット手術や内視鏡手術などの高度最新医療に対応しやすくなりました。さらに、手術部と病理部を上下階で直結することにより、手術中の病理診断の連携もスムーズになりました。今後は術中MRI診断及び術中IVR（画像支援治療）もできるようになります。

周産母子センターについては、既存施設の改修によりMFICU（母体胎児集中治療室）を6床設け、重症の母体を受け入れる体制を整えることにより、総合周産期母子医療センターとして拡充整備される計画になっております。

他にも、光学医療診療部では最新の内視鏡機器を備え、診断・治療スペースが拡充されたことにより、より多くの患者さんに充実した診療を提供できる体制になりました。また、従前の外来化学療法室が通院治療室及び緩和ケア外来などが一体化して腫瘍センターとなり、麻酔科・ペインクリニック科と隣接して効果的な診療を行う体制になっております。

さらに、放射線部も拡充され、最新の放射線治療装置であるリニアックが2台設置され、MRI室及びIVR室も増設されました。